

COP6通信

11月

18日

Kiko

気候ネットワーク

〒604-8124 京都市中京区高倉通四條上ル高倉ビル3F

Tel:075-254-1011 / Fax:075-254-1012

E-mail:kikonet@jca.apc.org http://www.jca.apc.org/kikonet/

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-7-3 西川ビル2F

Tel:03-3263-9210 / Fax:03-3263-9463

E-mail:kikotko@jca.apc.org

気候ネットワークは、地球温暖化対策に取り組む市民のためのネットワークです。

「Kiko」は、温暖化問題の国際交渉の状況を伝えるための会期内、会場からの通信です。

COP6 第2週 閣僚級会合を前にしてのコメント

京都会議議長国・日本の役割の総仕上げをハーグで

気候ネットワーク 代表 浅岡美恵

13日からオランダ・ハーグで開かれている COP6 は、18日から閣僚級会合に移行するが、残る1週間の交渉の行方に緊迫と不透明感が高まっている。今週冒頭から18日にかけて行われた事務レベル協議では、主要な論点のほとんどすべてで、EUと日本など非EUのアンブレラグループおよび途上国グループなどの間の対立が併記されたまま、19日からの閣僚級会合に引き継がれることになったためである。

今後1週間の議論が、3年前の京都会議で生み出された京都議定書の積み残し課題を決定し、2002年発効に踏み出す準備を終えるという、まさに京都議定書の命運を決することになる。そんな緊張感がみなぎる中、ここハーグに世界各地から環境大臣が集まってきている。日本からも18日には京都会議で議長を務めた大木浩元環境庁長官および柳本卓治前環境庁政務次官がハーグ入りしたのに続いて、本日、川口順子環境庁長官が到着した。

COP6 閣僚級会合で川口長官は、吸収源と京都メカニズムという最も中核を占めるグループの共同議長を務めることが予定されている。COP6 議長のアランダ・ブロンク大臣の計らいだが、日本にとっては COP3 で時間切れとなった京都議定書の総仕上げの機会を、大木元環境庁長官から川口長官へバトンタッチして与えられたものといってよい。温暖化対策は21世紀の世界の最も重要で困難な環境問題であり続ける。COP6 で、その第一歩となるべき合意形成において、日本が中核的役割を果たすことで、日本は今後の環境外交に重要な足跡を残すことができるだけでなく、日本の環境政策を時代に即応して発展させる願ってもないチャンスである。時代の要請に応えた公正な合意形成に向けて、川口長官の手腕に期待したい。

しかし、日本へ対して世界から懸念も示されていることを忘れてはならない。

京都議定書第3条3項、4項の吸収源についての日本の主張は、先進国の排出削減を数値目標で約束した京都議定書の環境保全性を最も危機にさらしている。14日に出された日米加の吸収源に関する共同提案は、日本などこれらの国の身勝手な主張を満足させるための理念を欠いた提案であることは明白である。吸収源プロジェクトの CDM への適用も、国内外でのエネルギー対策などへの取り組みを遅らせ、世界の森林保護を脅かす。国内対策が第一であることを認めながら、補完性を数字で表わそうとせず、また京都議定書の約束を守ると強調するものの他方で意欲を失わせかねない遵守の仕組みに固執し続けている。これらは交渉態度に一貫性を欠くだけでなく、その真意に疑念をもたらしている。

ここハーグで、京都議定書が新しい意味で21世紀の地球規模での温暖化対策の出発点となって初めて、日本の京都会議での役割は全うされる。その役割は重い。しかし、やりがいのある仕事である。私たちは、日本がこの役割を十分に全うすることを、心から願っている。